

令和4年度

第1回

関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時：令和4年6月15日（水）

10：00～11：30

場 所：関東森林管理局ほか  
（各委員の事務室等）

次 第

1 開 会

2 議 事

（1）木材の需給動向について

- ①木材の需給及び価格等の動向
- ②関東森林管理局における国有林材の供給状況
- ③各地域の木材需給動向について

（2）その他

3 閉 会

令和4年度 第1回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 委員名簿

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一
福島県森林組合連合会 参事	遠藤 誠寿
栃木県 林業センター 技幹兼場長補佐(総括)兼研究部長	川上 晴代
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業経営・政策研究領域 領域長	久保山 裕史
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 廣興
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	佐藤 信聡
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志
有限会社平子商店 専務	平子 美穂子
栃木県森林組合連合会 木材流通課 課長	福田 成芳

関東森林管理局

官 職	氏 名
森林整備部長	山口 輝文
資源活用課長	森田 隆浩
企画官(木材需給対策)	畠山 幸樹
上席技術指導官(木材供給担当)	奥村 忠充
素材供給係長	齋藤 悠
供給計画係	濱砂 俊介

(別紙)

令和4年度 第1回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 開催日時・場所

令和4年6月15日(水) 10:00~11:30

関東森林管理局 5階中会議室及び各委員事務室等(書面及びWEB会議)

2 議題

(1) 各地域の木材需給動向

(2) その他

3 検討結果

各地域の木材需給の動向や各員からの意見を総合的に勘案した結果、現時点では、新たな供給調整は必要無いが、今後の供給については、事業を計画的に実施し予定量を確実に供給していくと共に、各地の木材需給状況及び市況を注視し、大きな動きがあれば臨時の供給調整検討委員会の開催を含め対応されたい。

4 概要(状況報告等)

(1) 各地域の木材需給動向について

- 静岡県における杉原木については、現在の価格は少し下がりにつつあるものの、他県より高い価格を維持している。出材は順調で、販売量・在庫量ともに平年並みとなっている。
- 梅雨時期を迎える中であるが原木の引き合いは強い。合板工場への原木入荷量は増加傾向であり、工場の土場は満杯のため若干調整を行っている。原木価格は高止まりしている。合板製品の在庫は低水準となっている。製材品価格は横ばいで、下落の気配は見られない。
- 原木の入荷は順調だが、製材工場側の手持ちが増えてきたこと、原木が傷みやすい時期に入ったことから買い控えが見られる。春からの新築需要の伸び悩みや針葉樹合板の供給不足などから、住宅市場の先行きも不透明である。
- 原木は順調に入荷し、在庫量もやや多めになっており不足感はない。製材品加工についてはフル生産が続いており、入出荷ともに順調に推移している。輸入材価格は高値を維持しており今後の価格下落の可能性は少ない。国産材の集成材やKD羽柄材等は価格を維持している。
- 原木の入荷が安定し、在庫が徐々に増えてきた工場が多い。価格は総じて高値が続いている。製材品も高値が続いている。原材料等の価格が上昇しており、今後、製材品価格の更なる上昇もあり得る。
- 木材市場における原木取扱量は昨年並みだが、大径材割合が徐々に増えつつある。原木価格は年明け頃からやや下落傾向にある。今後もやや下がるものの、大きな下落はないと考える。
- 例年より原木の出荷量、在庫量ともに増えているが、カラマツ合板用などで品不足が続いている。今後も活発な荷動きになると考えるが、原木価格は夏場の材質低下により値下がりすると思われる。
- 地元の木材市場での販売量は前年同月比115%と入荷はますます。梅雨時期に入るので虫害が心配である。

- 原木は前年対比で113%の販売実績である。虫害の時期に入ったことから入荷量の減少が予想される。原木価格は下げ傾向が見られる。
- 原木について、製材用・合板用ともに在庫量はコロナ前の水準に達しつつある。製材用原木価格は下落し始めているように見えるが、合板用原木価格は上昇を続けている。在庫量が高水準になったことから、原木価格の下落しやすい局面に入った可能性がある。
- 製材品価格は、外材品の高値に引きずられて高止まっている。欧州材については、ロシア材の供給不足の影響で需給のタイトな状態が当面続くと思われる。

## (2) その他

- 羽柄材や垂木類など、杉で代替可能なものについては是非、使用してもらいたい。
- 栃木県内の製材工場で生産している杉無垢材平角が大手住宅会社向けで定期採用が決まったことから、国産材の抱える大径材利用の問題について突破口になると期待している。
- 引き続き、素材生産・再造林事業者の強化、国産材乾燥材の供給力向上や、横架材市場の獲得の取り組みが急務と考える。